

令和4年度 富山県衛生研究所 研究成果発表会

1. 日時 令和4年11月11日（金） 14：30～16：40
2. 場所 富山県薬事総合研究開発センター 創薬研究開発センター 2階大会議室

3. 内容

(1) 開会・衛生研究所の概要（14：30～14：40）

(2) 基調講演（14：40～15：10）

『新型コロナウイルス感染症：その特性から考える収束への道』

所長 大石 和徳

新型コロナウイルスのパンデミック発生から2年半が経過しました。新規ワクチン開発とワクチン接種推進により集団免疫が形成され、一旦はデルタ変異株は消失したかに見えました。しかしながら、次に出現したオミクロン変異株は効率よくワクチン免疫からすり抜ける特性を獲得し、集団免疫の隙間である小児及び若年成人世代に入り込んでいます。今後、変異株対応ワクチンや汎コロナウイルスワクチンの開発と接種推進が進み、さらに経口抗ウイルス薬の臨床応用が可能になれば、新型コロナウイルス感染症の収束が現実味を帯びてきます。

(3) 研究成果発表（15：10～16：40）

① 疫学調査支援チームの活動について

研究企画部 主任研究員 田村 恒介

富山県衛生研究所では、令和2年の新型コロナウイルス感染症の発生以降、保健所・厚生センターの疫学情報の解析を支援し、結果を県内関係機関に共有してきました。本年4月に疫学調査支援チームが発足され、疫学調査支援活動を組織的に行う体制になりました。本発表では、疫学調査支援チームの概要とこれまでの取り組みについて紹介いたします。

< 休憩 10分 >

② 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種効果に関する高齢者施設の抗体調査

ウイルス部 主任研究員 板持 雅恵

新型コロナウイルスの感染予防および重症化予防のために、我が国へワクチン接種が導入されて1年半が経過しました。現在、ウイルスの変異によるワクチンの防御効果の低下が懸念されています。富山県衛生研究所では、高齢者におけるワクチン効果を調べており、今回の発表では、これまでの調査内容と課題をご報告します。

③ レジオネラ症対策における富山県衛生研究所の取り組み

細菌部 主任研究員 金谷 潤一

レジオネラ症の原因菌であるレジオネラ属菌は、土壌、河川などの自然環境だけでなく、公衆浴場、冷却塔などの人工環境にも広く分布するため、感染源は多様です。本研究では、行政、医療機関と連携し、富山県内で発生したレジオネラ症患者や環境中からレジオネラ属菌を分離し、遺伝子解析を実施しました。その結果から、患者の感染源について考察したので紹介します。

④ 有毒植物による食中毒の発生状況と原因究明への取り組みについて

化学部 部長 堀井 裕子

植物やキノコ、魚介類には有毒な成分を含むものが存在し、その毒成分を自然毒といいます。自然毒を含んだ動植物を食べることで食中毒になり、死亡者が発生するなど重大な健康被害をもたらすことがあります。今回は植物性自然毒を中心に、国内の食中毒発生状況および当所における原因究明のための取り組みを紹介します。